

在住外国人インタビュー

ファン カルロス アバロス オルティス氏

- カハマルカ国立大学 獣医学科中退
 - カリャオ国立大学 会計学科修了
 - メトロポリターノコンピュータ専門学校
コンピュータシステムプログラミング修了
- 現在 八日市国際交流協会日本語教室ボランティア講師及び
滋賀県国際協会みみタロウボランティアとして活躍中



■早速ですが、カルロスさんの自己紹介をお願いします。

僕の名前は、ファン カルロス アバロス オルティスと言います。日本では姓と名一つずつなので、アバロス カルロス。ペルー出身で、奥さんは日本人です。2カ月前に永住許可をとりました。

■来日されて何年になられますか。

愛知県小牧市に来たのが初めての来日で、この1月で10年になります。今は八日市在住です。

■日本語教室でボランティア活動をしているそうですが。

八日市に来て2年ほどして市役所に行った時に“ボランティアグループが日本語を教えている”ということを知り覗いてみたのがきっかけで、八日市国際交流協会の日本語教室で、日本語講師のボランティアをしています。担当は日曜日午後1時半～3時まで。ブラジル人、インドネシア人、いろんな外国人がいて、スペイン語の人が来たら私が教える。僕はポルトガル語もできるので助けることもできます。

■生徒さんは何人くらいですか。

天気や気候と関係があって、夏季や雨の日は人数が少ないんです。多い時で20人くらい、少ない時は2～3人。仕事のお休みが日曜日しかない人は休んでしまうことが多く、なかなか続かない人も多いので、同じ教室でも生徒さんの日本語レベルはいろいろです。

■日本語が大変お上手ですが、どうして勉強されましたか。

最初日本に来た時には日本語が全然できなかった。小牧で最初に勤めたのは夜勤で、夕方7時から翌朝6時までが仕事。家に帰ったら寝るだけ。夜勤は外国人が多く、ポルトガル語、スペイン語で話し、日本語は全然喋るチャンスが無かった。だから4年半前に八日市に来た当時はとても困りました。会社は日本語がしゃべれる人が欲しいと言うので、その時に一生懸命自習したんです。それまでは少し聞くことができるくらいだった。今は読み書きは平仮名やカタカナはOK、でも漢字は2年生くらいかな。漢字は難しいです。今は友だちが事務所を作るので、そのお手伝いで忙しくて、勉強したいけど時間がない。

■どうして日本語ボランティア講師になられたのですか。

僕だけじゃなく、外国人は初めて日本に来た時は何もわからないでしょ。だけど家も借りなきゃいけないし、会社とも雇用契約等々交わさないといけない。その時に問題なのは、大事な書類に

サインをするにも、日本語がちゃんと分からないと後でトラブルになるかもしれません。だから僕は今この教室を通じて外国人にいろんな日本の事を教えてあげられることがとても嬉しいし、注意やアドバイスもしてあげたいんです。

■当協会発行の在住外国人向け生活情報誌「みみタロウ」でもボランティアとして、一昨年の4月頃の、ペルー・ポリビア100周年の記事からご協力頂いているようですが。

以前から、やってみたい気持ちはあったけど、チャンスがなかったんです。ある日「みみタロウ」にスペイン語が話せるボランティアのことが書いてあって、それで以前から外国人相談窓口の担当者を知っていたので、電話したんです。

■在住外国人としてカルロスさんの目から見た日本の社会や生活は？

多分多くの外国人が日本で就労するとぶつかる問題についてお話ししたいと思います。まず、住宅の問題。外国人が自分で家を借りるのは、保証人の問題等でとても難しい。市営等の公的住居は、応募者の倍率が高く、なかなか当たりません。で、たいてい就職先の会社が借りてくれるか、社宅制度があれば社宅に住んだりするんです。ところが、これがまた問題。つまり、一旦就職しても雇用条件が合わない、また、自分の思いと違った場合、違う仕事に変わりたいと思っても、会社を辞めると家も失うことになるので、どうすることもできなくなるんです。実際、僕も市役所に市営住宅等のお願いに何度も足を運びました。この間でも2軒に対して43人の申し込み者がいました。

それと、外国人は給料が据え置きで上がらない、という話をよく聞きます。

外国人というだけで、自分の能力や資格を生かせる仕事に就くことが非常に難しいことが多いです。

確かにいろんな外国人がいます。欧米では、国籍じゃなく、能力や資質、資格などに応じて職業に就けるチャンスがたくさんあります。日本はその点まだまだ遅れています。

■今後の抱負についてお聞かせ下さい。

僕は大学で会計事務やコンピュータを学び修了した。それ以外にもいろいろあるし、日本語もできるけど、残念ながら日本では全然活かせていません。今後は事務所を持って、翻訳やビザの手続きとかの仕事をやっていきたいという希望があります。「この地球上のことは、やってできないことはない」というのが私の信条だから。